

マンガ版財政白書の解説

小金井市平成22年度決算版

財 政
たから と まさ の

マンガでわかる！ 私たちのまちの財政



前原財（まえはらたから）とある高校の社会の先生。現代社会が担当です。いつもは優しいけど、実は結構辛口な面もあっったりします。

貫井政（ぬくいまさ）とある女子高の生徒。いい加減なところもあるけど頼まれると断れないところも。今年は学園祭の会計係を引き受けてしまいました。

www.comipo.com

キャラクターの名前は、小金井の地名である前原と貫井を名字とし、財政を二つに割って「たから」と「まさ」にしました。きわめて安直ですが、名前のところで工夫をしても仕方がないと思い、こうしています。

さて、最初マンガ版を自作しようと考えていたときのイメージとしては

財さんと政ちゃんはこの感じでご考えていました。



財さんイメージ

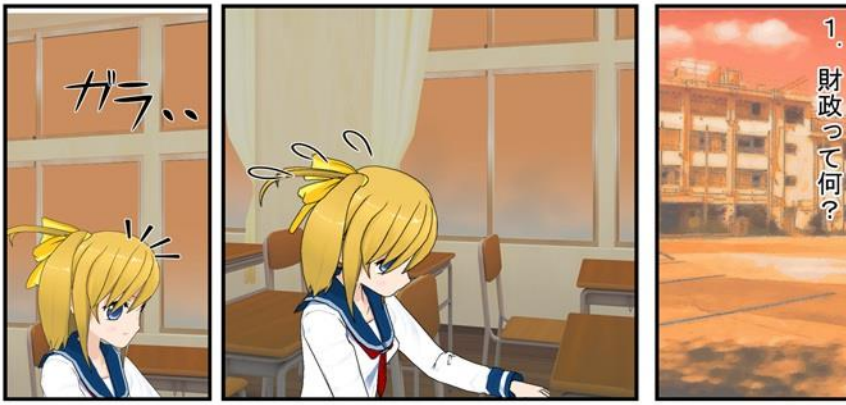


政ちゃんイメージ

財さんは、基本的な線はあまり変わっていないかと。現代社会が担当とか、財政と直結して工夫がないといわれそうですが、工夫しません。そこらへんは、政ちゃんはずいぶん変わってしまった。というか全然違う。設定としては高校生なのですが、今見るとちょっと幼い気も。学園祭の会計係を引き受けたという設定で、学園祭の会計と市の財政をラップさせながらストーリーを展開しています。背景は公園の背景に桜を組み合わせて、小金井っぽさを出しています。（出てる？）

財政の説明資料では、最初に「財政とは何？」を説明するのが定番です。

いきなり「一般会計とは～」「予算とは～」と説明に入ることもありますが、普段の生活の一場面から出発したりするなどの工夫をしている例もあります。



全体の構成として、日野市を作成したときは冊子にできるように16ページ構成としましたが、今回はWebのみで見ることを前提に小金井市独自の問題を入れて、21ページとしました。

そのうち財政の概要で6ページ、小金井市の課題で7ページ、表紙と裏表紙で2ページ、あとはプロローグ4ページ、エピローグ2ページとなっています。

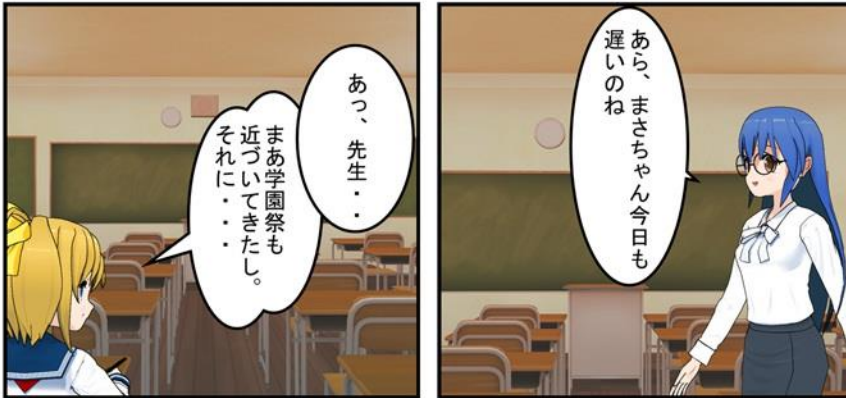
通常の財政白書と比較して数字や財政項目の説明の割合が少なくなっています。

そのような配分にしたのは理由が2つあります。

一つは、マンガ版だと前振りが多少長くても、それ自体が読み物として楽しければ間延びしないこと。

もう一つは、マンガ版の場合、財政白書の中にマンガがあるのではなく、マンガの中に財政白書があるような感じになるので、出てくるキャラクター、マンガの舞台に引き込む時間が必要になるからと考えたためです。

さて、2ページ目はまさにイントロダクションで、学園祭の会計と市の財政をシンクロさせるための前振りです。

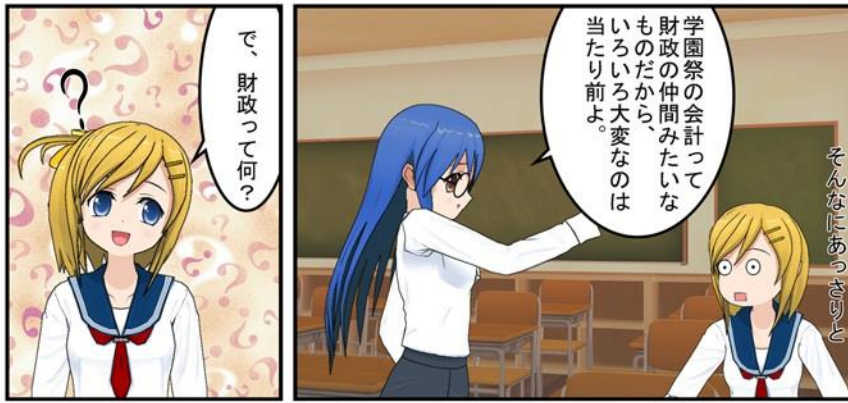


www.comipo.com

場面は夕方、本当は“遅くまで学園祭の仕事をしている”というニュアンスを出すため、日が暮れた後の設定（教室は蛍光灯がついている）にしたかったのですが。

コミPo!では、夜の背景がなく、あるのは夕方の背景だったので、それを採用。また教室は背景を少しずつ変えることで視点が変わったように見せていますが、実は3D的な整合は全然とっていません。

さて登場人物は先生と生徒という形にしました。しかも財政を教えるのが社会の先生という、一般のマンガの設定としてはあまりに工夫がないといわれそうですが、ここではわかりやすさを優先しました。



財政とは何？という質問に「財政とはみんなから集めたお金をみんなのために使う仕組み」と応えています。

これは、日野市の紙版の白書や動画版の財政白書と同じです。

財政の定義はいろいろな説明のしかたがあると思いますが、私はこれで通っていきたいと思います。

この説明のメリットは、行政活動以外に例えた説明などが可能であること。

このマンガでは、学園祭でも「みんなから集めたお金をみんなのために使う」という側面があることから、財政の仲間とすることで、主人公と結びつけています。

最後の方のコマで「財政に詳しくなれば会計係が楽になりますか？」という質問がされます。

実は「財政を勉強して役に立つの？」「財政を考える会で財政がよくなったの？」という質問をされることがあります。

財政がよくなるかならないかということであると、直接的によくする作用はありません。

健康診断と同じで、よくないところはわかりますが、わかっただけで何もしなければよくなりませんし、放置すれば悪くなることもあります。

でも知ることは物事を改善するための第一歩ですし、我々一市民にとっても財政は日常生活に関係してくることなので、決して他人ごとではないのです



紙版の財政白書では、冒頭で財政とは何かを次のように説明しています。ちょっと長くなりますが、引用します。

私たちは日常生活の様々な場面で、市からの行政サービスを受けています。例えば、週3回のごみの収集、多くの子どもが通う小学校や中学校の建物の管理、幼稚園や保育園への補助金、高齢者の方への様々なサービスの提供、図書館での本の貸し借りや新しい本の購入、毎日使う道路の建設と管理などなど、数え上げれば切りがないぐらいです。

これらのサービスを提供するためには、私たちはつい忘れがちですが、全てなんらかの形でお金がかかっています。市役所の職員がサービスする場合には人件費が、業者に頼む場合には委託費が、物を作る場合には建設費とその後の管理費がかかります。

これらのお金は主に市民が支払っている税金なのですが、いろいろやりくりしても足りない部分は銀行などから借りたりします。(もちろんかりたものは利息をつけて返さなければなりません。) こうした行政サービスを行なうのに必要なお金をやりくりしているのが財政なのです。



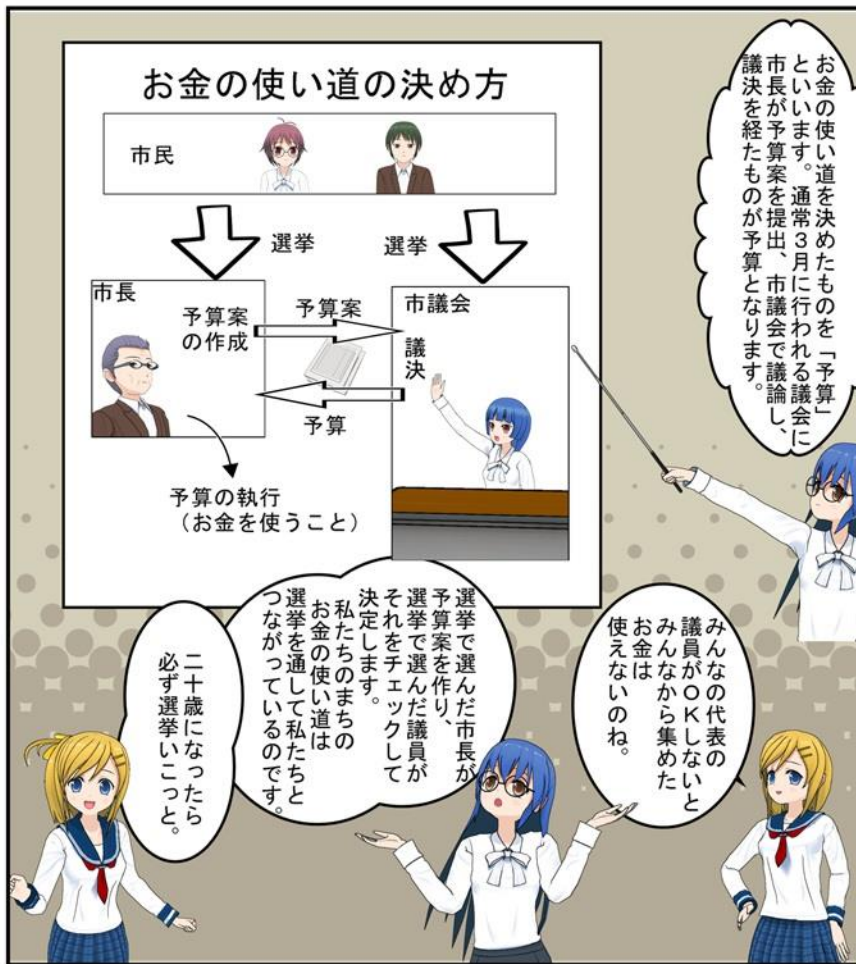
www.comipo.com

マンガ版ではストーリー性を出すために、学園祭と財政との類似性を先に説明し、「財政は生活に身近」という切り口から、通常の財政の説明を後から出しています。

ページの下半分は4コマ漫画。時々息抜きで入れています。通常4コママンガは上から下に読み、そのほかは右から左に読みます。なので読んでほしい順番に数字をつけています。

コミPo!のポーズはいろいろあるのですが、リリース当初、格闘系をイメージしていたためか、かなり激しい動きが多く、説明用で使えるポーズのバリエーションは意外と少ないので、同じようなポーズが多いと思われるかと思いますが、ご了承ください。

指の向きやアングル、首の角度、表情などを調整してなるべくバリエーションが出るようにはしています。



次のページはお金の使い道の決め方。前回のまさちゃんの「お金が必要なものはいろいろあるけど、どうやってお金の分け方を決めるのですか。」という問いに答えるものです。

ふきだしの中で説明すると煩雑になってしまうような細かい解説は解説の帯を設けることにしました。

マンガの作成上で困ったのは設定されているキャラクターが、当初生徒と若い先生でした。

通常市長や議員さんと聞いて思い出される年齢層とはちょっとずれがある。

ので、市長は苦し紛れにグレーの髪でお茶を濁しました。議会は質問している人が若くても女性ならばあまり不自然じゃないかと（先生と同じ服を着ているとかいう突っ込みはなしよ。実は市民と市長の服が同じ）

その後、しわにより加齢の処理ができるようになったり、服装のバリエーションが増えたりしたので、実はこの問題は解消したのですが、あまり時間がなくてそのままにしています。

細かいことになりますが、市議会の枠で机を切るようにするため、ここを独立のコマに設定していたりします。

（机は学校の机の素材を使っています。実はこれもオフィスの机の素材があとから出たのね。）

選挙の話になったので、二十歳になったら選挙にしようという、かなりベタな締め方をしていますが、とても大事なことなので許してください。

解説

みんなから集めたお金の使い道はみんなの意思を尊重して決める必要があります。

でも実際に市民全員が集まって話し合うことはできません。

そこで市民の代表が集まってお金の使い道を決めるのです。

予算案は市長だけで作ることはできません。実際には市長の方針や国や都の動向、税収の見込み、市の各部署からの要望などを財政課の人が取りまとめて作成しています。

お金を使った結果は決算としてまとめられます。決算も議会で承認が必要です。

結局何に使うのかしら？

それは次のページから。



前ページで「何に使われているのかしら？」で締めたところで、今回からお金の使い道です。

じつはここまでの部分は、ほとんど、どの市を舞台にする場合でも使えます。

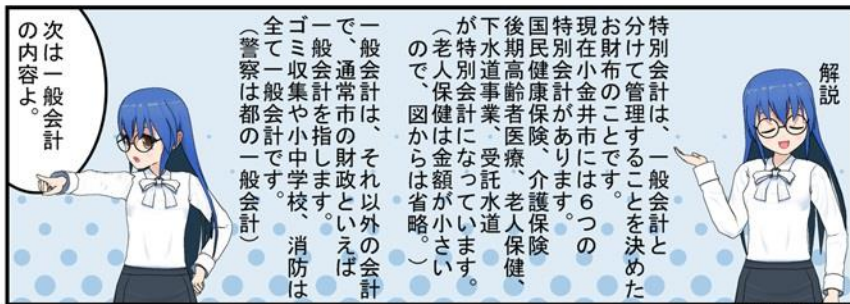
主人公の名字は変えないといけません。

ここからは、図とグラフを変えれば他の市でもOK。こちらに素材をアップしているのでコミPo!のソフトをお持ちの方はダウンロードして編集すればできるというお話。

もし作った人がいたら連絡くださいね。

さて内容。このページはまずは、財政規模の話。どれぐらい自分の市がお金を使っているかを知っている市民はたぶんほとんどいないと思う。かく言う私も東京都がどれぐらいお金を使っているかは知らない。

ここでは100億という0が10個も並ぶ数字を持ち出して、それより遙かに多いことを示しています。



人口規模によって総額は変わるとは思いますが、一般会計の歳出が30万円台というのはたぶん全国的に大きくはかわらないと思います。(平成22年度の普通会計の中都市の平均は35万円ぐらい)

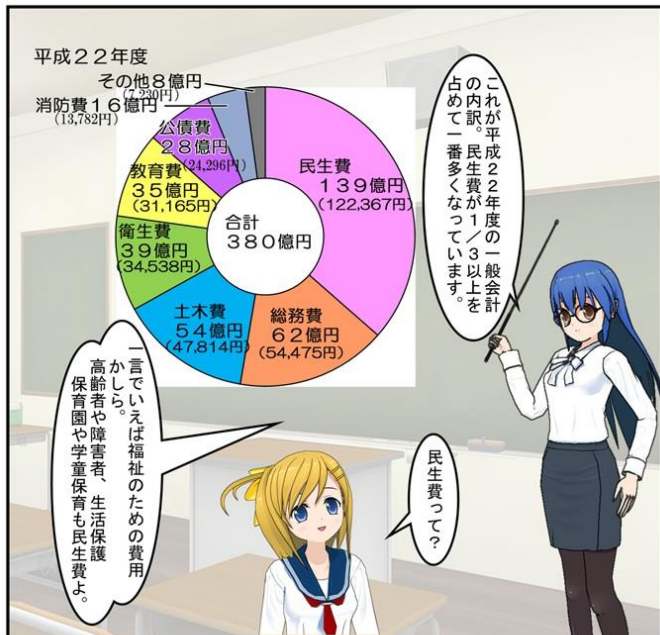
ついでに一般会計と特別会計の解説も加えています。

グラフについては、黒板に写すようなことも考えたのですが、読みやすさを考えると黒板の大きさだと小さすぎるので、教室などの具体的な背景ではなく、目立たない模様を背景にしています。

このページは全体的に青っぽい感じになっています。

解説で警察は都の一般会計と断りを入れているのは、4ページ目で「警察や消防の活動もお金が必要なのだ。」

と警察を行政サービスの一例としてあげているため。市の歳出の中には警察は出てこないの、ここで整理をしています。



次は歳出です。目的別歳出の方がわかりやすいと思ったので、まずは目的別歳出から。

とはいえ、一つ一つの項目がこれまた解説を要するものなので、ページ下に解説欄を設けました。

解説

総務費…これはその他もろもろ市役所全体を運営するための経費。住民票の交付や税の徴収、市役所の建物の賃料なんかそうね

教育費…小学校、中学校、幼稚園の他、図書館や公民館、体育館もそうよ。先生の給料は都が払うので市の決算書には出てこないわ

衛生費…ゴミの収集や処理、保健衛生、市民病院への補助金もあるわ。でも大半がゴミ収集と処理に使われているの。

土木費…道路や橋、公園を作ったり、管理したりする費用。

公債費…市が借りたお金を返済するためのお金です。利子の支払と元本の返済の合計よ。

消防費…消防署、消防団の費用

その他…議会費、商工費、農業費などがあるわ

目的別歳出に続いて、性質別歳出です。

目的別と性質別の違いの説明の例としては、「経費（歳出）をその行政目的により分類したものを目的別分類といいます。経費（歳出）をその経済的性質により分類したものを性質別分類といいます。」

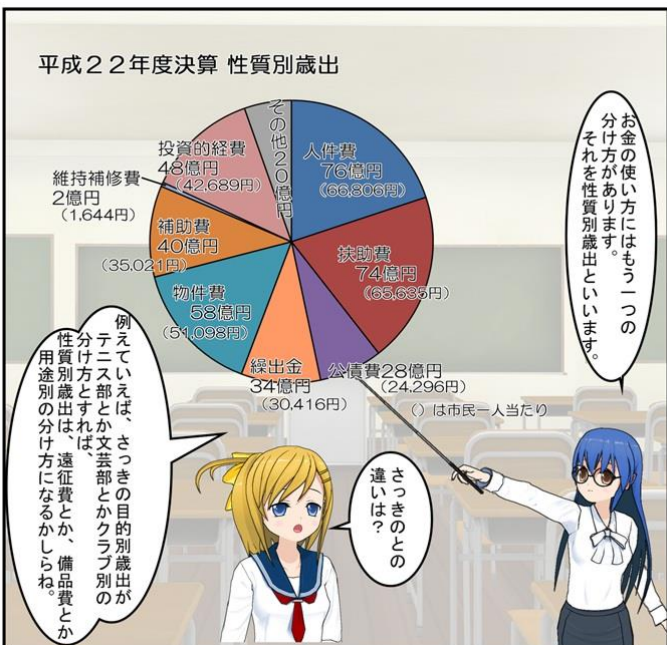
という感じが一般的ですが、これでわかる人がいるのかな。

比較的わかりやすいのが小平市の財政白書

「市立保育園保育士の給料」を例にとって考えてみましょう。

目的別で考えると…「こどもの保育（福祉）のため」のお金なので民生費
性質別で考えると…「職員の給料」のお金なので人件費
・・・というような説明がされています。

ここでは「女子高の生徒会費の使い道」の場合に例えてみましたが、適切かどうかはわからん。なんとなくわかりやすい感じはするのですが。



解説

人件費…そのまま職員の給料や手当だね。扶助費…生活保護費とか。現金や現物を支給するための費用。ほとんどが民生費です。

公債費…借金を返済する費用。

ここまでは義務的経費（減らしていく費用）と呼ばれていて、この割合が多くなるよ。財政が苦しいといわれているわ。

緑出金…特別会計への補助のようなものね。

物件費…その他もろもろ。備品だけじゃなく委託費やアルバイトもここ。自身は委託費が多いわ。なぜか定額給付金もここに入っているわ。

維持補修費…建物や道路などの費用。でも委託すると物件費。

投資的経費…工事費や土地代が多いわ。



前半で

- ・いろいろなことにお金が使われていること。
 - ・私たちの生活にも関係していること。
- を示し、次のページ以後に説明する歳出の話につなげています。

後半は4コママンガ。ちょっとスパイスが利いていますが、実は同内容が含まれている日野市バージョンでも市のHPからリンクを貼ってくれています。(市の方がチェックしたのかどうかは不明ですが。) 実は日野市の平成18年度の財政白書でも同じような内容を書いています。

以下引用(登場人物は日野市太郎と日野市子という設定、名前については突っ込まないで。)



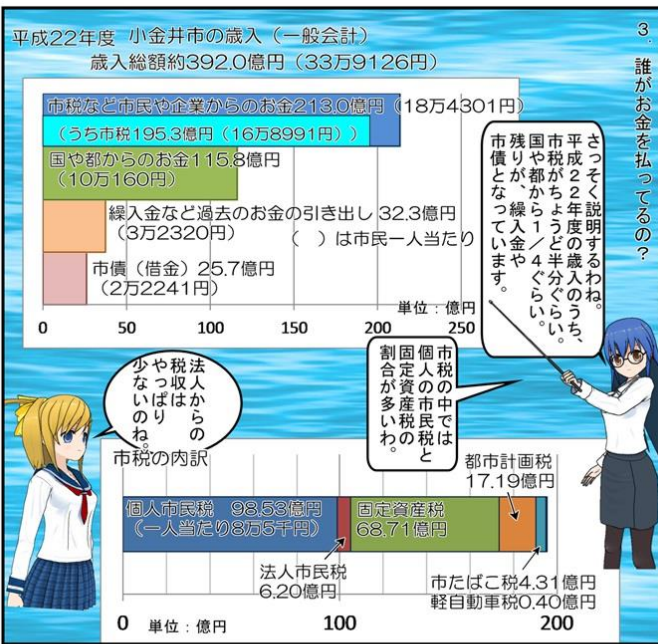
市子「ところで、市の場合は簡単に減らせない経費ってなんなの？」
市太郎「人件費、扶助費、公債費の3つが主なものだね。これはまとめて『義務的経費』と財政の世界では呼ばれているよ。逆にこの3つ以外だったら簡単に減らせるかといえば、必ずしもそうではないけれどもね。」

市子「でも、人件費って、会社でも例えば数年前前は固定費で減らせないっていわれていたけど最近はどうなのよ。将来的にもっと財政が苦しくなって『市民へのサービスは今後減らしていきます。』というときに『でも自分の給料は減らしがたいお金なんです』とかいわれてもナットクできないんじゃないかしら。」

ただ、長い文章の中にまぎれているので、マンガ版ほど目立たないかもしれません。

なぜ、この4コマは女子高生と先生なの？

という突込みがありそうですが、これを仮に役所のおじさんっぽい人と、怒る市民だとちょっと重くなるかと思ったので、実は意図的なのです。



解説

個人市民税はお給料など個人の所得にかかると税金。法人市民税は会社の所得にかかると税金。固定資産税は土地や建物や機械にかかると税金。都市計画税は土地と建物にかかる税金。

消費税は国が集めて5%のうち1%を県や市に分けるのよ。小金井市には約11億円配分されています。

その他市内の住民や企業からの歳入は主に使用料や手数料。そのうちごみ処理の手数料が約4億円で多いわ。

繰入金は、市の貯金を取り崩したお金。貯金を下ろしても収入になるの？

確かにわかりにくいわね。借金である市債も歳入になるのよ。だから歳入と収入はちょっと意味が違うのよ。

消費税はないの？

消費税は国が集めて5%のうち1%を県や市に分けるのよ。小金井市には約11億円配分されています。

その他市内の住民や企業からの歳入は主に使用料や手数料。そのうちごみ処理の手数料が約4億円で多いわ。

繰入金は、市の貯金を取り崩したお金。貯金を下ろしても収入になるの？

確かにわかりにくいわね。借金である市債も歳入になるのよ。だから歳入と収入はちょっと意味が違うのよ。

www.compo.com

歳入の状況と市税の状況を一つのページに収めていますので、かなり窮屈な感じかも。

この中では貯金を下ろしたり借金をしたりしても歳入になるという、あまり市民がしらなそうな事実を明らかにしています。また消費税は？という比較的素朴な疑問にも答えています。

また手数料についても、ゴミ処理の手数料としてどれぐらいかかっているか触れたり、かなり盛りだくさん。

「法人からの税収が少ないのは、不景気だから？」という問いには次ページで答えています。

仮に冊子にした場合、1ページ目が表紙、偶数ページが右、奇数ページが左に来るので、8ページ目と9ページ目という見開きである程度話が完結するような構成にしています。但しそれを守っているのは今回は11ページまで。

このページのポイントは

「市の財政は他の誰かではない、市民一人一人が支えている。」ということ。

地方交付税が主な収入源になっていたり、特定の企業の税収が多かったりする市では必ずしもこの限りではないのですが、概ね多摩地域の市については当てはまるかと思えます。

さて、下半分の4コマの部分は、最後まで何を入れようか迷った部分です。

最初は歳入に関する何かネタを考えていたのですが、思いつかず。以前ブログであげた試作用の4コマを再度あげました。

そしてそのまま放置。。。

実はこのマンガの本体よりも先に4コマができていたのです。

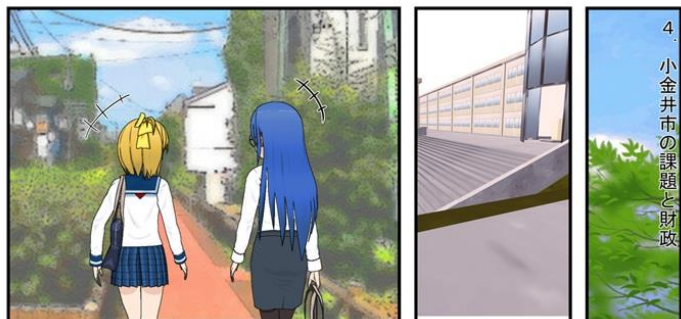
「もし女子高の学園祭実行委員が「財政」を学んだら」というタイトルや女子高生が説明するというアイデアは、以前から持っていたもののようです。（今になっては思い出話）

でも本当にこういうの誰か書いてみませんか。



財政4コマ : マンガでわかる財政資料づくり





www.comipo.com

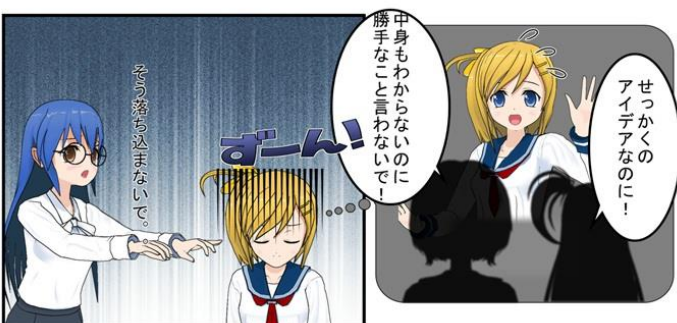
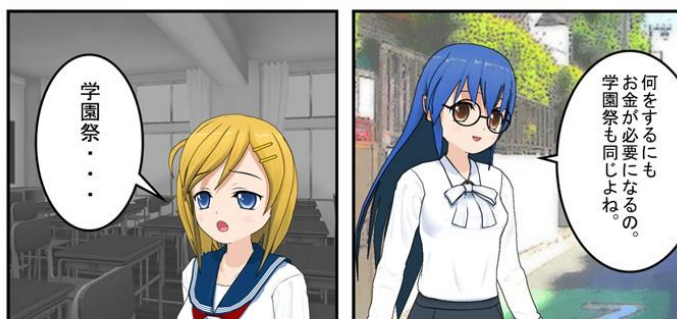
「こういう問題は財政で解決できないの?」という台詞で個別の問題と財政をつなげていこうとしています。

財政関係のことをやっていると聞かれるのが「それで市政がよくなったの?」とか「あるいは市政がよくなるの?」ということ。あまりにも単純な質問で非常に答えにくい。

なぜならばYes、Noでは回答できないから。

ここで、先生は「財政だけでは解決できないけれども、財政抜きでも解決できない」というやや思わせぶりなことを言っています。

次ページでお金を扱う側と使う側のギャップがあることを指摘しつつ、その協力が重要ということを用意で学園祭を例に出し、ちょっと落ち込ませるという場面を入れています。



www.comipo.com

ここから新たに作ったコンテンツです。

昨年発表した暫定版ではここから特別会計の話に入っていたのですが、特別会計をカットして、小金井市の問題について取り上げることとしました。

新しい小金井市のマンガ版を作るときは必ず個別の課題について取り上げよう。と前々から思っていたのですが、財政全般の話からどう導入するかが非常に難しく、いつも「今日こそ書き始めよう」と思いつつ、行き詰まり、あきらめて他のことをし、、、の繰り返しで時間が経ってしまいました。

まずは新しい展開が始まるということで、学校の教室の中から帰り道に場面の転換をしています。

でも最初夕方だったから時間の流れとしてはおかしいよなと、今頃気がつく。

まあ別の日だということにしておこう。

実は3コマ目と4コマ目は同じ背景を使っていますが、左右反転させたり、見せる部分を変えて不自然にならないようにしています。

まずは、「そういえば小金井市って問題だらけですよね。」で本題に入っていきます。



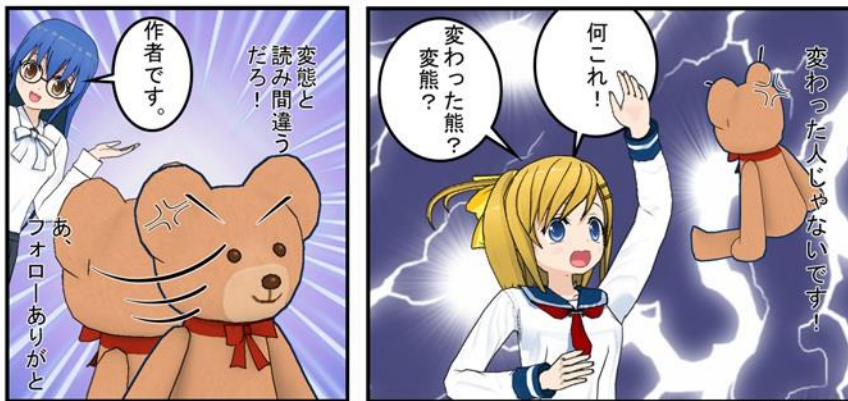
といいつつ、個別の問題もお金のことも一緒に考えるのは大変、、、という中で財政白書の役割が出てくるという筋立てになっています。こういう流れがベストだったかどうかはまだわかりません。

ここで、作者の化身である熊が出てくるのですが、なぜここで新しい登場人物を出したかという、まずは全部先生に話させようと思うと非常に長くなってだれてしまうこと。



そこで先生に「公開している市民もいる」といわせて、その本人が登場するという仕掛けにしました。

政ちゃんに「変わった人」と言わせていますが、分析が趣味という、変わっているといわれることもあり、（東洋大学の講座で話をしたときは「物好き」といわれてしまった。）そういったところを反映しています。



それに対して、「おい！」と突っ込みを入れたり、ちょっとギャグの要素を入れています。



最初の台詞はまさに、財政白書なり、財政分析なりが課題の解決に貢献する糸口になる部分だと思っています。

問題が起きる前はみんな関心がなかったものが、話題になると、基礎的な仕組みや量の話が押さえられていないまま急激に議論が沸騰し、感情論や精神論に流れてしまうことは間々ある話。

人口が少ないのに、費用は2倍以上、他の市と比べるのがポイントね。

例えば市庁舎 こんなん感じ。

市庁舎の比較

小金井市	日野市
人口約11.6万人	約17.8万人
本庁舎1965年築 延床3,222㎡ 職員107名*1	1977年築 延床 12,364㎡ (建設費24億円)
経費1億5,221万円*2 (17,352円/月坪*3)	経費1億7,319万円 (5,145円/月坪*3)
-委託料(設備、清掃等) 4193万円	-電気代 3672万 -管理業務委託 3013万 -借地利 1553万 -空調機改修 1365万 -電話代 1044万 -ガス代 1023万 など
-水光熱費・修繕3850万 -補修 2855万 -非常勤嘱託 1647万 -電話代 1626万 など	-賃借料2億2,686万 (13,841円/月坪*3) -維持管理費7,579万 (4,624円/月坪*3) -駐車場機械借上165万

*1非常勤職員等含む(平成21年) *2庁舎管理費から明らかに本庁舎以外の費用を除いたもの *3有効率75%とした場合。

www.comipo.jp

議論の基礎となるべき情報について、まとめるといことが地道だけど大事なことなのではないかと思っています。

今回は個別の問題として市庁舎とごみ問題を取り上げました。

仕組みがわかりにくいものの例として国民健康保険のようなものをあげることも考えたのですが、それこそ本当に複雑でマンガで解説しようとするとかかなりのページを要しそうなのでやめました。

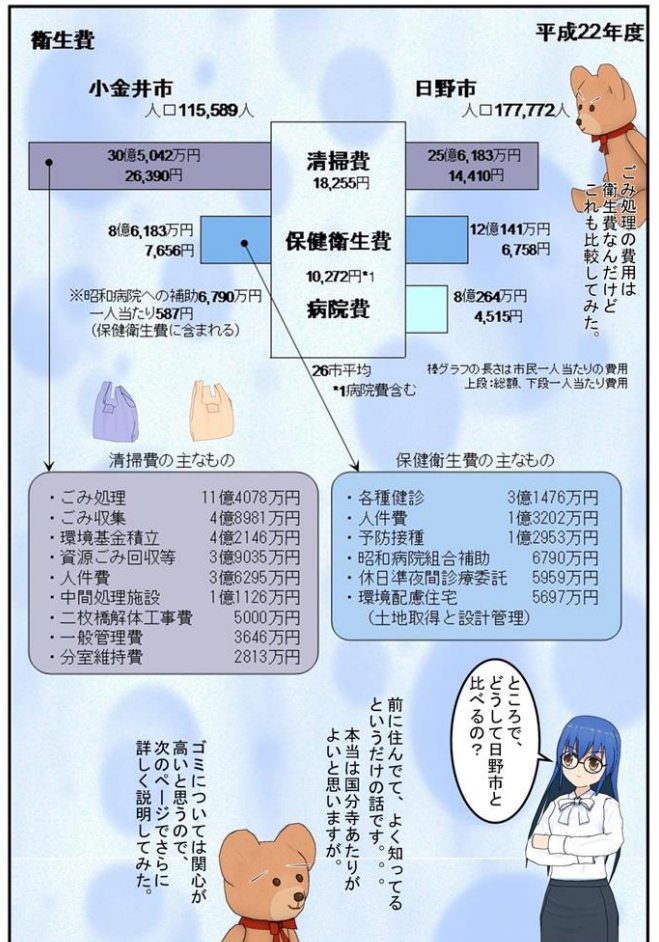
マンガで紹介されたスライドについてはWeb版の白書で既に解説がされています。

ここはそのエッセンスのみ。

視聴者については私も分析してここまで違うのかと初めて気がつきました。

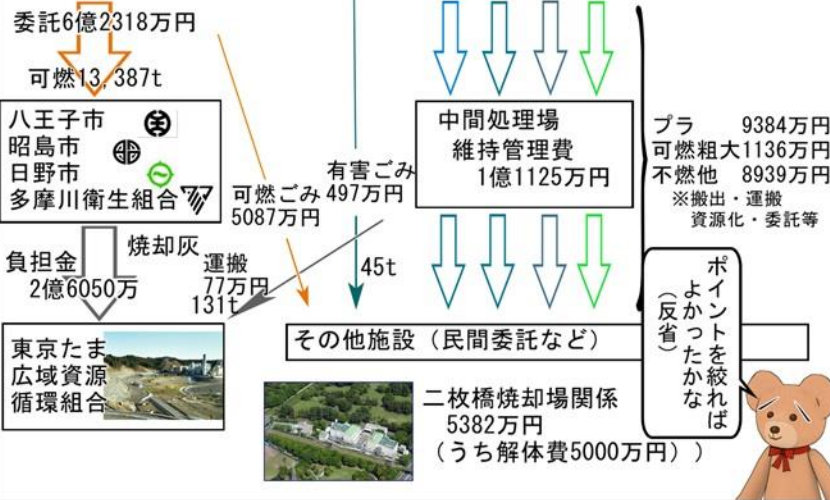
次はごみの話。ごみ処理の費用は予算・決算書では清掃費に含まれており、その清掃費は衛生費に分類されています。まず清掃費全体を解説、ごみ処理の費用が日野市と比較して非常に多いことを示し、次ページでさらに詳しい内容を説明しています。

さて、私の化身として扱われている熊ですが、コミポのソフトに入っている“くまのぬいぐるみ”というオブジェクトを使っています。が、ただのぬいぐるみでは表情がまったくないので、眉をつけてバリエーションをつけています。



小金井市のごみの流れと費用

平成22年度



ごみについては流れと費用を分析した資料を1ページ全面を使って紹介しています。

ちょっと複雑ですが、今回はあえて紹介しました。次回以降はインフォグラフィックに説明できればと思っています。

※とこのときは書いていますが、今になって思えば、無謀だったという気がします。

一応ごみの種類ごとに矢印の色を変えています。意外と面白いのでじっくりみてください。



このパートとしては、財政分析だけでは課題が解決しないとして、「財政分析は診察のようなもの。分析なしに思い込みで処方箋や治療をしても解決につながらない。」とまとめています。

下半分の絵は実はいろいろなことが考えられています。自分で言うのもなんですが。

一つは、**市民を含めた議論が必要である**ということ、すなわち行政は情報をオープンにすることを求め、市民に対しては無関心ではいけないことを言っています。

議論のためのしっかりとした基礎的な情報のためにも、行政が情報をしっかり提供することが必要なのです。

そして、議会の議論もしっかりウォッチする必要があること、「**報告**」と書いてあります。つまり市民に対してどのように議論してその結論に至ったかを説明する義務があるということ。

これは私が活動している「議会報告を聴く会」の方にもつながっていくお話にもなります。

市議会の方があっち向いたりこっち向いたりしていますが、他意はありません。たぶん。





今回は衣替えの後という設定で服装とリボンの色を変えています。

3コマ目の机にうつぶせるというポーズは初期のバージョンにはなかったもので、万歳のポーズのまま横に倒して作成しました。(下半身は枠の左側に出ているというわけ)

財政錯覚という言葉は使っていないものの、似たような趣旨のことは2005年に発行した財政白書でも紹介しています。そのときはこのような表現でした。ちょっと長いですが引用します。

市役所が行う行政サービスにはいろいろなものがある、それぞれについて異なる部署の異なる担当の職員がいます。各々の部署の役割は異なり当然にサービスをする対象の市民や支払を行う対象の業者が異なります。

例えば高齢福祉課の職員は高齢者を対象とし、子育て課の職員は子どものいる家庭を対象とし、産業振興課は商店や農家を対象とするなど、通常市民の一部の人を対象とします。

さて、これらそれぞれの係の部署は一年のある時期になるとそれぞれの係りの人が来年どれぐらいお金が必要になるか、お金をまとめる係りの人(財政課)にお話します。

お金を使ってサービスする側からすると、より人が多かたり、予算が多かたりする方が仕事がしやすいですし、市民からも喜ばれるので、多めにお金を欲しがります。

特に全体として予算が限られてくる状況となると、その中でいかにパイを確保するかということが重要になり、同じ市役所でありながら各課がある意味利害対立の関係になります。そのような中、遠慮をしていると他にお金が回ってしまうという心理も働き、より多めに予算を要求する傾向が出てきます。実はこの構造と市民は無関係ではありません。例えば、同じ税金を払っている高齢者世帯と子育て世帯、サラリーマン世帯と自営業世帯があるとすると、どの分野にお金が多く回るかにより有利不利が出てしまうため、市民も自らが関係する行政サービスは拡充してほしいと要求しがちになります。

例えばまた鍋になってしまいますが、鍋に参加する人が多くなると全体の予算を考えずに多く飲み食いしたり、好きな物を注文したりしがちになります。中には割り勘負けしないように多く食おうなどと考える人もいるかもしれません。

一方、税金を市民から集める係りの人は、来年はこれぐらいお金が集まりそうだという話をしますが、気がつけば収入より多くのお金がかかることになってしまいます。

そこで、まとめる係りの人がいろいろな話を聞きながら、

「全体的に去年より収入が少ないから、去年よりちょっと減らしてよ。」とか

「この仕事は来年に回せないかなー」とか言って、全体的に収支がなんとか合うようにしますが、基本的に財政は膨張する傾向にあります。

鍋の場合は、「全員が割り勘負けしないということはありません」ので、皆が食べ過ぎるとすぐにお財布にはね帰ってくるのですが、財政の場合はその規模と仕組が大きく全体像が見にくいこと、いざとなったら借金ができるので一時的に「全員が割り勘負けしない」ような状態が作り出せることから、食べ過ぎに対するはね帰りが実感できず、食べ過ぎになりがちです。(実は子どもたちの分を食べている可能性があるのですが。)

今改めてみると、よくここまで直接的かつわかりやすく書いたなと我ながら感心してみたり。

実は当時は「ここまで書くか」といわれて、そのまま出すべきか揉めたのですが。



全ページの最後はこのページの国の財政の問題の話につなげるための導入です。
「大人になってもあまり賢くならない」というのは、我々の世代が子どもにつけを回していることを示唆する台詞でもあり、財政錯覚が大人を含めて（大人だからこそ、なのかもしれないが）陥りがちなものであることを示しています。

これまでの財政白書では国の財政のことには触れていなかったのですが、マンガ版財政白書は「グラフと台詞の一部を入れ替えれば他の市でも使える」というコンセプトで作っていることと、最近国の財政への関心が高まっていることから入れました。

正直なところ1ページで収めるには多少無理があると思っています。

このページでは

- ・単年度のバランスが崩れていること
- ・積もった借金がすごい額であること
- ・これらは将来への負担であること
- ・小さな一歩として我々が関心を持つこと

と内容が盛りだくさんなので、本当は2ページぐらいにすればよいのですが。

ちなみに、ネットにアップしているバージョンでは先生の服が夏服のままになっていたもので、ここに掲載したもので修正しました。



最後は裏表紙です。が。印刷することを前提としていないので、それほど意味はないですが、最後にメッセージの意味で残しておきました。

ネットにあがっているものは、桜だけで、後ろ頭はなかったのですが、主人公がどこにも出てこないのはいかがなものかと思ったので、ちょこっただけ出してみました。

主人公が女の子なので、語り口調が女の子なのですが、これをおじさんが作成していると思うと、「うっ」と思われるかもしれませんが、変な想像はしないでね。

実際にこのマンガやブログを見て、作者が女性だと思った方もいらしたようです。

最後に、このブログの紹介をして結びとしています。

以上で解説は終了です！ お読みいただきありがとうございました。

